

# 宮城山岳通信第27号

## 目次

巻頭言	支部長 . . . . . 2 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . . 2~3 頁
全国山岳古道調査 中間報告	
■山岳古道現地調査報告	
☆「二口古道調査報告」	千石信夫 . . . . . 3~4 頁
☆「栗駒古道調査を終えて」	加藤知宏 . . . . . 4~5 頁
☆「蔵王古道調査報告」	佐藤昭次郎 . . . . . 5~6 頁
■進捗概要	事務局 . . . . . 6~7 頁
宮城支部山行報告	
☆第9回登山教室（北屏風岳）〈公益事業〉	草野洋一 . . . . . 7 頁
☆夏山山行（後烏帽子岳）〈共益事業〉	太田 正 . . . . . 8 頁
☆秋山山行（神室岳）〈共益事業〉	千石信夫 . . . . . 8~9 頁
行事記録	
☆第4回宮城・山形支部交流会報告	冨塚和衛 . . . . . 9 頁
☆宮城支部ビールパーティー	千葉正道 . . . . . 10 頁
令和4年11月～令和5年3月の行事予定	事務局 . . . . . 10 頁
編集後記	会報・編集出版委員長 . . 10 頁

## 巻 頭 言

支部長 千石 信夫

秋も深まり、色づいた山々の映像が目に入り、皆さまも秋山を堪能されておられると思います。

さて、前回の山岳通信以降も、引き続きコロナ感染対策に心掛けて計画を実施してきたところです。

集会委員会では、登山教室の屏風岳、夏山山行の烏帽子岳、秋山山行の神室岳など開催することができました。公募の登山教室も参加者からは、また参加したいとの声があり、好評だったと思っております。

古道調査特別委員会においても、栗駒古道、二口古道、蔵王古道など調査が進んでおります。また山形支部との交流を兼ねて、県境を跨ぐ部分の協議も行われました。今後は原稿作成のためのテンプレート作成などに移行していくものと思っております。

支部自然保護科学委員会からは、風力発電の問題が取り上げられ、県内各地で設置計画があり、公益社団法人日本山岳会宮城支部としての見解を明確にする必要があるとの提言がありました。この件については、私も26号通信においても述べましたが、役員会において十分協議し、対応していきたいと考えております。

恒例のビールパーティーも、久しぶりに会員と顔を合わせて懇親することができたことは嬉しく思っております。早くコロナ感染が治まり、気兼ねなく多くの会員が集まれることを願ってやみません。今年の本部晩餐会は、開催することで決定されたようですので、支部の晩餐会も開催したいと考えております。皆さまとお会いできるこ

とを願って巻頭言とします。

## 【役員会議事録】

■令和4年7月14日（水）定例役員会は、コロナ感染拡大のため中止

■令和4年9月定例役員会

日 時：9月21日（水）18：00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、高橋、横山、草野、佐藤（昭）、鳥山 計9名  
千石支部長より挨拶のあと議事に入る。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告

①宮城・山形支部交流会実施結果について：

7月16日3年振りに両県の交流会を開催、宮城から5名、山形から7名の参加。主に山岳古道調査関係の情報交換を行ない、宮城支部から古道調査の資料を提供。

②令和4年度支部運営交付金について：

2022年6月30日現在の宮城支部会員数は、正会員32名、準会員2名、永年会員3名。基準会員数は31名となり交付金額62,000円（@¥2,000）。全国的に最下位の茨城県支部（24名）に次ぐ順位。

尚、令和3年度に正会員1名、準会員1名が入会、新入会員獲得報奨金8,000（@¥4,000）を加え、宮城支部の合計送金額は70,000円。

③本部晩餐会の開催について：12月3日（土）に新宿・京王プラザホテルで開催。

④所属支部変更届について：宮崎支部に在籍していた川脇大輝会員が、宮城県への転勤に伴い9月より宮城支部に転籍することになる。

⑤GHT及びヒマラヤキャンプ募金（寄付）のお願いについて

⑥「山の天気ライブ授業」について（主催：日本山岳会栃木支部、講師：猪熊隆之氏）

ロ）山行集会委員会からの報告

①8月20日に実施した夏山山行の結果

②9月23日予定の秋山山行の計画について

③第11回親子登山教室（10月）の実施計画

ハ）会報・編集出版委員会からの報告

・7月2日に「宮城山岳通信」第26号を発行

7月30日に『宮城山岳』第26号発行

・「宮城山岳通信」第27号は10月発行を目的に準備する

ニ）他委員会からの報告

・指導・遭難対策委員会の高橋氏より、教材テキストの話があり、高橋氏と千葉氏（海外・高所登山・医療委員長）が監修し発刊することにした。

ホ）山岳古道調査特別委員会からの報告

9月21日現在の古道調査進捗概要が報告され、宮城支部担当5道のうち、出羽仙台街道は、先日の大雨で大深沢の橋が崩壊したことにより調査延期とした（「中間報告」参照）

《審議事項》

○風力発電計画に対する会の見解について

自然保護委員会（委員長：柴崎徹、委員：高橋二義・宇都宮昭義）より、『宮城県の山岳・丘陵に於ける風力発電建設計画に対する私たちの見解とそれに基づく要請について』の文書が提案される。

役員で話し合いが行われ、先ず日本山岳会の自然保護委員会に宮城支部の見解を知らせる。続いて、行政機関や関係者宛の要請書とは別に、広く県民にアピールする文書も必要ではないかとなり、今後煮詰めることになった。

《その他》

○支部晩餐会の開催について

本部の晩餐会が開かれることになり、支部晩餐会を3年振りに開催する方向で検討。

## 【全国山岳古道調査 中間報告】

### ■山岳古道現地調査 報告

#### 二口古道調査報告

報告者 千石 信夫

実施日 令和4年6月26日（日）

集 合 野尻番所跡 駐車場

参加者 高橋二義、冨塚和衛、千葉正道、太田正、千石信夫 以上5名

〈報告〉

昨年は、二口境目番所跡から上部、清水峠まで調査を行ったが、今回は下部の方を調査することにした。

野尻番所跡にある秋保足軽紅重という樹齢270年の桜の木を確認、オオヤマザクラが突然変異したとされ、2年前に新種と認定された。花の写真は来春に撮影することにする。その後、野尻に残存する足軽屋敷や石碑などを見て写真に収めた。

秋保ビジターセンターまでは車で移動し、その後は歩きながらGPSの軌跡を記録し、途中の石碑やキャンプ場の施設、姉滝などを確認。磐司橋の水場を過ぎたところで、高橋会員が踏査している古道に入る。所々に石が積まれて残っているところを確認しながら歩く。途中で迷ってしまうような状況である。間もなく林道に戻り、白糸の滝入口で休憩。

朝から好天となり、季節外れの高温に悩まされ汗だくとなつての調査となつた。間

もなくゲートがあり、車は進入禁止となっていた。



二口溪谷

ゲートからは、林道上部の展望台までの間を歩き、軌跡を記録し調査終了とした。

### 栗駒古道調査を終えて

報告者 加藤 知宏

実施日 令和4年7月23日(土)～24日(日)

集合 湯浜温泉

参加者 千石信夫、千葉正道、冨塚和衛、加藤知宏、以上4名

〈報告〉

日本山岳会では創立120周年記念事業として、全国で古道調査を行っているが、宮城支部でも幾つかの古道調査を目下行っているところである。そのうち「栗駒古道」の現地調査を、令和4年7月23日(土)から24日(日)にかけて行った。

今回の現地調査は、湯浜温泉をスタートし、クロベ巨木の森を経由し、世界谷地駐車場をゴールとするルートで行った。23日、湯浜温泉から調査を開始した。歩き始めてすぐ出会う母沢(一迫川支流)の美しい溪流、優美な湯浜の上滝、ランプの宿として有名な湯浜温泉・三浦旅館の露天風呂などに

心が弾む。

登山道は全体的に勾配が緩く、整備が行き届いている。迷いやすい箇所や危険な箇所は殆んどない。白桧沢という1つ目の沢を渡渉後、雨足が強くなり、間もなく土砂降りとなった。湯浜コース分岐から間もなく相ノ沢という2つ目の沢を渡渉する。雨量が多かったが、何とか渡渉できた。八沢という小さい8つの小沢があるエリアを越え、3つ目の小桧沢という大きな沢を渡渉するはずだったが、沢の増水が激しく渡渉は困難と判断し、この日の山行継続は取り止め、来た道に戻った。

この日の宿は、新湯温泉くりこま荘だった。



くりこま荘にて

宿のオーナーで郷土史家である菅原次男氏に栗駒古道の歴史や義経伝説などヒアリングを行い、貴重な話を聞くことができた。

24日、天気も回復し、世界谷地駐車場から調査を再開することにした。世界谷地第一湿原、第二湿原を越えて大地森分岐点へ向かう。ここには、江戸時代に「お助け小屋」と呼ばれる、今で言う長屋作りの宿泊地があった。現在は登山者の休憩場所としてテーブルと椅子が備え付けてあり、当時を偲ぶ石碑がある。

その後、大地沢という大きな沢及び巨木の森入口を越えて、昨日引き返した小桧沢まで行き昼食をとる。その後、巨木の森入口まで引き返す。ここには“千年クロベ入口”という標識があり、千年クロベに向かう分岐道がある。分岐道の先にある木桧沢2号橋を渡ると平坦な林道が続き、その先に「千年クロベ」と呼ばれるクロベ(ヒノキ科)の巨木があり、そのどっしりとした姿を目に焼き付け、世界谷地駐車場まで引き返した。

今回の調査は、途中豪雨に見舞われるというハプニングがあったが、全行程を調査することができ、菅原氏からも貴重な話を聞くことができ、実りある調査だった。今回の結果も踏まえ、古道調査を完遂したいと思う。

### 蔵王古道調査報告

報告者 佐藤昭次郎

実施日 令和4年8月27日(土)

集合 遠刈田温泉・公民館駐車場

参加者 千石信夫、富塚和衛、遠藤幸壽、佐藤昭次郎、以上4名

(報告)

実施日の8月27日前日まで雨のぐずついた天気でしたが、参加予定の千石、富塚、遠藤、佐藤の4名が集合場所となる遠刈田温泉の公民館駐車場に集まりました。

今回は“蔵王古道の会”が主催する「蔵王御山詣り」第9回目の公募行事です。ここへの参加は、日本山岳会が取り組む古道調査にご理解いただき、特段の配慮とご協力をいただき無事調査する事が出来ました。何せ観光道路(エコーライン)を何度も横断するコースなので、車への対応などスタッ

フが揃わないと、スタートの刈田嶺神社里宮から刈田嶺神社奥宮まで、古道コースとしてのGPS軌跡の収録が難しく、この企画に合わせての調査となりました。

古くは修験者が利用し、その後各地に残る「〇〇御山詣り」と称する山岳信仰が続いてきた山で、ここ宮城では蔵王山詣りとなる。1960年代に観光道路の開通で、半世紀以上忘れ去られた道を、有志(蔵王古道の会)が集まり復活させた古道である。



調査参加である我ら4名も、90名を超える参加者の隊列のほぼ中間に配置され、先達組と言われる各班のリーダー役が神官からお祓いを受けた後、午前6時30分刈田嶺神社里宮の鳥居を出発。

我々も手持ちのスマホのアプリを作動させて後に続く。コース上に度々出てくる観光道路(現在の県道白石・上山線)の横断には、“蔵王古道の会”の役員が手際よく車を制してくれて順調に、しかも往時の面影のある場所や、史跡となっている場所で説明をしてくれる。そこでスマホのカメラシャッターを押す作業となる。一般参加者の多いこの企画ですから、ゆっくりと・・・だが、麓から山頂までの距離は実際長いので、このコースを歩くには相応の体力と時間を必要とする。

歩き始めて3時間、不動滝駐車場で休憩、

水とバナナを頂戴するなど、我々もそのおこぼれに授かる事に。先はまだまだである。もう5時間ほど歩くと澄川のスキー場である、この辺りに来ると、朝のどんよりとした雲も薄くなり、ここで“昼食！”の号令で調査隊はゲレンデにて昼食とした。

英気を養い山頂へ。この先、山岳信仰の古道特有の霊場と言われるだけに、賽の碓や三途の川などの説明を受けながら、ゆっくりとした歩みを続ける。この辺りに来ると頭上には雲もなくなり時折日が差す。ここから上部は時折視界が広がり、ハイキング的な山旅となる。

里宮を出発してから既に7時間、大黒天に到着、適度な疲労感と最後の登りを目の当たりにして、スタッフが用意してくれた“力水”を頂戴し重い足を上げる。急坂が続くなか隊の先達が“ザンゲ、ザンゲ”の声、それに続き参加者の“ロッコンショウジョウ”の声。それが前後の各隊から聞こえる。まさに往時を思い起こさせる。

2時44分、無事目的の刈田嶺神社奥宮に到着し、我々も調査終了。アプリの電源を切り“蔵王古道の会”が準備したバスに同乗させていただき出発点へ。古道の会のご厚意で楽しい調査山行を終了しました。

## ■進捗概要（9月21日 現在）

### ○「日本の山岳古道120選」に選定された調査対象古道（宮城支部分）

- ①NO. 15 栗駒古道 世界谷地駐車場～クロベ巨木の森～湯浜温泉
- ②NO. 16 出羽仙台街道 尿前の関～中山峠～山刀伐峠なたぎり
- ③NO. 19 関山街道（峰渡古道）
- ④NO. 20 二口街道（二口峠）

- ⑤NO. 21 蔵王山の信仰の道（蔵王古道御山詣りコースなど）

### ○宮城支部の進め方

#### ア) 調査対象古道の進捗状況

##### ①栗駒古道

- ・郷土歴史家、栗原市（栗原ジオパークに説明、協力依頼
- ・世界谷地～クロベの森間は踏査。7月23日～24日、世界谷地～湯浜温泉間踏査。郷土史家から話を聞く。
- ・テンプレートのタタキ台を作成済み

##### ②出羽仙台街道

- ・鳴子支所に説明、協力依頼。踏査はまだ。
- ・9月下旬調査予定も、大深沢の橋が崩壊し延期予定

##### ③関山街道

- ・関山街道フォーラム平川会長に説明、協力依頼
- ・テンプレート作成でフォーラムの協力が得られる見込み
- ・踏査は複数回

##### ④二口街道

- ・秋保支所、地元団体に説明、協力依頼。複数回踏査

##### ⑤蔵王古道

- ・役場、教育委員会、蔵王古道の会に説明、協力依頼
- ・テンプレートについて蔵王古道の会からは送信あり
- ・7月16日 山形支部と意見交換
- ・8月27日 刈田嶺神社～刈田嶺奥宮間を踏査

#### イ) 調査スケジュール

- ①踏査＝テンプレート作成に当たり、更に踏査が必要な古道については随時実施し、テンプレートの充実を図る



- ②テンプレート作成＝各古道担当チーフを中心に年末まで随時作成、さらに年度末までに成案を作成
- ③GPS地図作成(メイン古道のみ、サブ古道は必要なし)
  - ・少なくとも2機のスマホで軌跡、写真、所要時間、距離、標高等のデータを取る
  - ・千石支部長を講師にスマホの操作レベルの向上を図る

### 【宮城支部山行報告】

#### 〈公益事業〉第9回登山教室

報告者 草野 洋一

実施日 令和4年7月10日(日)  
 山名 南蔵王・北屏風岳(1825m)  
 コース 遠刈田温泉・公民館駐車場(7:30)  
 ＝分乗して登山口に移動～南蔵王登山口(8:20)～前山(9:05～15)～杉ヶ峰(9:40～50)～芝草平(10:10～25)～北屏風岳(11:15～12:00＝昼食)～芝草平(12:30～13:00)～杉ヶ峰(13:20)～前山ガレ場(14:00)～南蔵王登山口(14:30)～公民館駐車場(15:30) 解散  
 参加者 会員＝千石信夫、冨塚和衛、冨塚真味子、佐藤昭次郎、細川光一、横山哲、草野洋一、支部友＝村上敏郎 計8名  
 一般参加者＝松橋尚子、小野寺和江、一条勝人、今村貞行 計4名 合計12名

第9回登山教室を南蔵王・北屏風岳で開催しました。一般参加者4人、山岳会8人の計12人が公民館駐車場に定刻集合。2台に分乗して登山口へ。日曜日で登山口に駐車できるか心配だったが、幸いに駐車することができた。

参加者紹介と準備体操をして出発。コース沿いにシャクナゲが咲いていて、好天に恵まれ、振り返ると刈田岳がくっきりと見ることができた。予定通りのコースタイムで北屏風岳に到着した。山頂からは周囲の山々を十分に展望することができました。予定では芝草平で昼食の予定だったが、ここで昼食をとる声多数で、意見一致。



杉ヶ峰山頂

下山は往路を使って登山口へ。芝草平で30分の大休止をとり、湿原地帯をゆっくり観察。眼前の蔵王連峰を見ながら下山しました。

北屏風岳山行は令和2年10月に秋季山行として登りましたが、この時は出発から下山まで雨中山行となり、期待していた紅葉を見ることができませんでした。今回は出発から解散まで晴天に恵まれましたが、公民館から自宅に帰る車中で雷雨に見舞われ、もう少し遅れたら雨中下山になるところでした。

## 夏山山行

報告者 太田 正

実施日 令和4年8月20日(土)

山名 蔵王連峰：後烏帽子岳～前烏帽子岳

コース 烏帽子スキー場→スキー場ゴンドラ→後烏帽子岳登山口→後烏帽子岳山頂→昼食→前烏帽子岳→烏帽子スキー場駐車場解散

参加者 会員＝千石信夫、加藤知宏、冨塚和衛、鳥田笑美、草野洋一、太田正、支部友＝村上俊郎、鳥田伊志、以上8名

スキー場手前・前烏帽子岳からの降り口に集合。9時10分にスタートし烏帽子岳ゴンドラで山頂に向かうも、上部かもしかりフトが動いておらず、スキーコース脇の急坂を登る。

今回の登山で一番厳しい登りでした。我々は歩くのが趣味で、それを楽しめばいいのに、ここで文明の利器が使えないのは、はなはだ恨めしく思ったことでした。



前烏帽子岳山頂

リフト頂上から登山道に入り、少し登ったあたりから小雨が降り出し、風もあることから途中で昼食を摂り、休憩後に山頂へ。

天気は思わしくなかったが、山頂から西の眺めは良く、展望を楽しんだ後すぐに前烏帽子岳に向かう。

前烏帽子岳で記念写真等を撮り、一気に下ろうと意気込んだが、これが長い長い下りで休みながら、やっと駐車場の所まで戻りました。9.4キロメートルの山行でしたが、山行日を挟んで前日は晴れ、翌日も晴れて下界からは山が良く見えました。“誰だ、雨男は！（自分かも）”と憤慨し、9月16日（金）に天気が良いので、また後烏帽子岳に。コースは聖山平から股窪⇒ろうずめ平⇒後烏帽子岳の往復です。

遠刈田あたりから霧がかかって見通し悪くなり、また“雨男？”と頭をよぎったが、エコーライン沿いの澄川スキー場に着く頃は、雲の中から抜け出て晴れており、ルンルン気分で8時45分登山開始。

登山道は刈払いがされて気持ち良く、沢を幾つか渡り、山頂には11時10分頃到着。少し早い昼食を摂り、屏風岳方面の原生林をぼんやりと眺めながら陽光の中、誰もいない山頂で静かな時間を独り占めする至福のひとつときでした。腰を上げたくなかったが、雲が下の方から上がってきたため帰路につく。聖山平に着く頃はガスの中で、13時15分にゴール。距離は7.9キロメートルでしたが、アップダウンもあり、前回よりは厳しく感じる仇討ち山行でした。

## 秋山山行

報告者 千石 信夫

実施日 令和4年10月1日(土)

山名 神室岳(1353m)

コース 笹谷峠(8:00)～トンガリ山(9:



30)～山形神室(10:30)～神室岳(11:40)  
～山形神室(13:00)～トンガリ山(14:00)  
～ハマグリ山(14:30)～大関山(14:50)  
～笹谷峠着(15:30)

参加者 会員＝草野洋一、細川光一、千石信夫、準会員＝佐藤翔太、支部友＝村上敏郎、山元町山歩き愛好会：今村貞行 以上6名

当初の日程の9月23日は、天候不順のため中止し、急だったが新たに10月1日に企画することにした。

参加者は会員3名、準会員1名、支部友1名、ゲスト1名の計6名。

8時笹谷峠に参加者全員が集合、駐車場は既に満車状態で登山者が多かった。天候は朝から快晴となり眺望も素晴らしく、快適な滑り出しとなった。途中からは宮城側の眺望もよく、オボコンベンなどが確認できた。

山形神室では村上さんがリタイヤし、残り5人で神室岳に向かう。清水峠への分岐を過ぎ最低鞍部まで行ったところで、ゲストの今村さんは山形神室まで戻り待機してもらうこととした。残りの草野、細川、佐藤翔太、千石で神室岳を目指す。

最後の神室岳への急な登りが辛く、正直大変だった。山頂からは月山、葉山、鳥海山も薄っすらと眺めることができた。山頂で昼食を摂り下山する。



仙台神室山頂

山形神室では今村さんと合流し休憩後、下山。笹谷峠15時30分、無事下山。帰りは山形側に降り、途中の水場で冷たい山水で疲れを癒し解散とした。紅葉にはまだ早くこれからという日だったが、天候に恵まれ初秋の山を楽しんだ。

## 【行事記録】

### ■第4回宮城・山形支部交流会報告

報告者 冨塚和衛

7月16日(土)、3年ぶりとなる山形支部担当の第4回宮城・山形支部交流会が、蔵王のレストハウスで開催された。参加者は宮城支部5名(高橋二義、横山哲、太田正、佐藤昭次郎、冨塚)。山形支部からは鈴木理夫支部長他6名の計12名。

鈴木山形支部長の挨拶の後、主に山岳古道調査に関する情報交換を行った。今後とも山岳古道調査に関し、協力し合うこととした(山形支部の山岳古道調査担当は日向会員)。



蔵王レストハウスにて

情報交換後に予定していた刈田岳～熊野岳の交流山行は、生憎の天候のため中止となった。次年度は宮城支部担当で実施する事を確認し解散した。

## ■宮城支部ビールパーティー

報告者 千葉正道

参加者 千石信夫、冨塚和衛、横山哲、草野洋一、細川光一、宇都宮昭義、鳥田笑美、鳥田伊志、千葉正道 以上9名

8月30日(土)16時から、JR名取駅前のサッポロビール園で9名の参加をえて行われました。行動制限のない状況で久しぶりの対面での会食となりました。

隣接する工場直送の生ビールを堪能し、一人一人の近況報告がありました。宇都宮さん、細川さんも参加されましたが、コロナ禍のため家族から反対され、参加を断念された方もいたようです。18時過ぎに十分満足し、全員名取駅より帰途につきました。

## 【今後の行事予定】

☆11月3日(木)

第3回山岳古道調査特別委員会

☆11月17日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆12月4日(日) 初冬山行

☆12月11日(日)

宮城支部晩餐会(シェルブール仙台)

☆12月15日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆2023年1月18日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆2月15日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆2月26日(日) 厳冬期山行

☆3月15日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆3月26日(日) 早春山行

(尚、諸事情により日程等を変更する場合があります。ご了承ください。)

## 【編集後記】

日本山岳会創立120周年記念事業の全国山岳古道調査で、本県支部の現地調査がヤマ場を迎えております。支部が担当する5つの古道の歴史や文化的価値などが、調査によってつまびらかになることでしょう。

ふるさと宮城の再発見となり、併せて東北地域との結び付きを再認識することになる古道調査の状況を、引き続き、「宮城山岳通信」で掲載していきたいと思っております。会員皆さまのご参加、ご協力をお願い申し上げます。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵



蔵王に咲くこまくさ

宮城山岳通信 第27号

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2022年11月3日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中9-12（富塚宅）